

令和2年度農作物有害動植物発生予察情報 特殊報第1号

令和2年7月15日
山形県病害虫防除所

1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda*(J. E. Smith)

2 作物名 飼料用トウモロコシ

3 発生の経緯

- (1) 令和2年5月から、県内5地点にフェロモントラップを設置し調査を行った結果、1地点で6月23日及び7月3日に各1頭、本種の雄と疑われる個体が捕獲された。
- (2) 捕獲された個体を農林水産省横浜植物防疫所新潟支所に同定を依頼した結果、県内では未確認であるツマジロクサヨトウと同定された。
- (3) また、6月から県内5地点で圃場での発生調査を行った結果、7月8日に飼料用トウモロコシでヨトウムシ類幼虫の寄生及び食害が確認された。
- (4) 捕獲した個体を農林水産省横浜植物防疫所新潟支所に同定を依頼した結果、県内では未確認であるツマジロクサヨトウの幼虫と同定された。

4 形態

成虫は、開張が約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄は前翅に淡色紋と白紋、雌は前翅に不明瞭な円紋をもつ(図1)。

幼虫は、終齢で体長約40mm、頭部に淡褐色の逆Y字の紋があり、尾部の刺毛基盤に特徴がある(図2、3)。

卵は寄主植物に卵塊で産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

5 生態と被害

- (1) 本種は南北アメリカ大陸の熱帯から亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することができない。
- (2) これまでのところ、国内で発生が確認された農作物はイネ科作物(飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ等)であるが、イネ科作物の他、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科等の広範囲の作物を加害するとされている。
- (3) 幼虫は植物の葉、茎、花及び果実を食害する。若齢幼虫は葉を集団でカスリ状に食害し、周辺の株に分散する。成長にするにしたがい食害量が増加し、食害部付近に多量の糞が散在する。また、葉に不定形の穴や茎頂部の葉に列状の穴をあけ、切断される場合もある。

6 防除対策

- (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見ついていることから、特にこれらの作物については圃場を見回り、早期発見に努める。
- (2) 本虫の発生が確認された場合は、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、下記に示された薬剤を使用する。
(農林水産省「ツマジロクサヨトウに関する情報」)
http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html
- (3) 発生が確認された圃場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕耘し、残渣をすき込む。



図1 成虫（左：雄、右：雌、開張：約 37 mm）
農林水産省HPより



図2 終齢幼虫（体長：約 40 mm）
農林水産省HPより

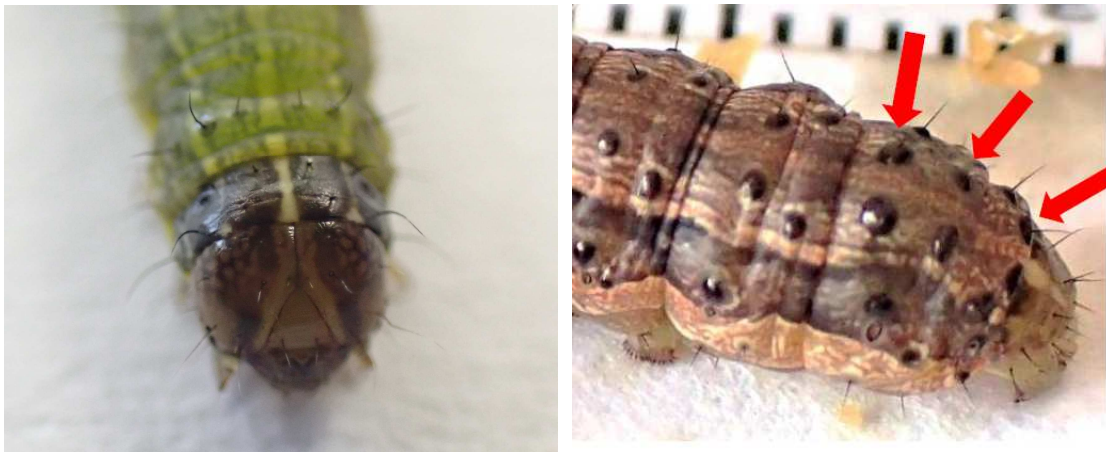


図3 終齢幼虫の特徴（左：頭部淡褐色の逆Y字、右：尾部の刺毛基盤）
右：農林水産省HPより

山形県病害虫防除所

本 所 tel 023-644-4241 fax 023-644-4746

庄内支所 tel 0235-78-3115 fax 0235-64-2382

山形県病害虫防除所トップページ

<http://agrin.jp/menu/t/790/>

病害虫発生予察情報

<http://agrin.jp/menu/t/563/>